

本書は、一九三〇年代に東京市を中心に行われた伊勢神宮参拝を主な目的とした小学校児童の修学旅行(参宮旅行)を研究対象に、その拡大から終焉までの構造をとらえ、「大正新教育」の実践が波及していた一九二〇年代以降の実践場面における教育的意味を検証する！

# 「伊勢参宮旅行」と

# 「帝都」の

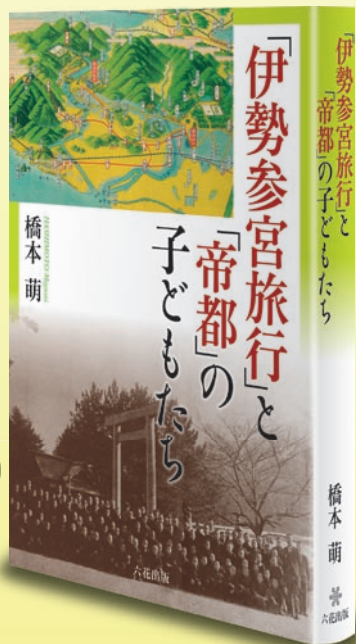
# 子どもたち

明治維新以降の近代国家形成の過程で、皇族による伊勢神宮参拝が励行され、政府・官僚をはじめ一般国民の参拝が「臣民としての義務」化が進む流れのなかにあつて、一九三〇年代においては鉄道網の発達や旅行文化が形成され、盛んに「参宮旅行」が行われた。

「六か年教育の最後の仕上げ」という位置づけで、主に三・四日の行程で実施、鉄道省による鉄道運賃割引(参加児童の二割を無償)の活用や各区などからも補助金(貧困児童への配慮)を得るに至り、参加者はピーク時には年間二〇万人に達した。

しかし一方で、一九四〇年前後から旅行規制(団体取り扱いの廃止や陸軍の演習に伴い、学徒動員体制の確立と国策重点輸送への協力を強いられて行く……)。

参宮旅行は、神社側には「尊皇愛国」の信念を養成する目的があり、一方の教育現場では教科書でも取り上げられていた。東京市では、「訓育」「訓練」の一環として実施され、旅行先の見聞をひろめると共に、修身科をはじめ、歴史・地理・算術の学習に役立つよう、事前の調査・研究・計画・旅費の計算など幅広い学習目的を考慮してこた。



橋本 萌 ● 著  
HASHIMOTO Megumi

2020年  
7月刊行!

推薦します

一九三〇年代後半、東京では九割を超える学校、一〇万人を超える児童が伊勢神宮を参拝したという。この東京市における参宮旅行(修学旅行)を素材にして、天皇制と教育の問題に迫ったのが本書である。「国家統制」や「国民動員」といった従来の分析枠組みを超えて、実施する側(地方当局や教育会の主体性を分析対象に据え、一九三〇年代の近代性や東京の都市性の観点も絡めながら捉えようとしたところに本書の特徴がある。「娯楽・消費・観光」などの旅行の側面、「家族」や大正自由教育との関係にも光が当てられており、時代背景を織り込んだ研究の拡がりも興行きも感じられる。参宮旅行システムの生成から拡大・終焉に至る過程とその構造を明らかにした学術的な意義は大きい。

加えて、「なぜ伊勢に行くのか」「何を学んだのか」「どのよう学んだのか」という教育の目的・内容・方法、さらにその効果に至る、実践場面における「教育的意味」の解明にまで射程を拡げた力作である。天皇制教育の起動メカニズムの一端を精密に解明した本書は、政治が学校教育に深く踏み込む現代の教育を批判的に読み解く上で有効である。ぜひ多くの方々手に取って欲しい。

山田 恵吾 (埼玉大学)



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-28 電話 03-3293-8787 ファクシミリ 03-3293-8788 <http://rikka-press.jp> e-mail: info@rikka-press.jp

序章

- 第一節 問題の所在
- 第二節 先行研究の検討
- 第三節 本書の課題と構成

第一部 参宮旅行の拡大から終焉

- 第一章 東京市における修学旅行に関する政策と参宮旅行の拡大状況
  - 第一節 東京市の初等教育に関する教育行政と修学旅行
  - 第二節 東京市における参宮旅行の拡大状況
- 第二章 東京市各区における参宮旅行実施以前の先駆け事業
  - 第一節 小学校教員による伊勢神宮参拝
  - 第二節 東京市における児童による参宮旅行の先駆け
- 第三章 東京市各区における参宮旅行——拡大の経過
  - 第一節 記念事業としての参宮旅行
  - 第二節 新市域における参宮旅行の開始と参宮旅行補助費の増額
- 第四章 鉄道省による運賃割引制度の創設
  - 第一節 東京府連合教育会における鉄道運賃割引要求運動
  - 第二節 伊勢神宮参拝の奨励の動き
    - 帝国議会請願委員会にみられた動き
- 第五節 鉄道省の対応と私鉄への影響
- 第四節 東京市における運賃割引運動の高揚

第五章 関東地方における参宮旅行の拡大

- 埼玉県・群馬県を事例として
- 第一節 埼玉県の事例
- 第二節 群馬県の場合
- 第六章 参宮旅行の終焉
  - 第一節 旅行規制のはじまり
  - 第二節 文部省による旅行制限と特例としての参宮旅行
  - 第三節 一九四一年の旅行制限
  - 第四節 一九四二年旅行規制緩和
  - 第五節 東京市における参宮旅行の終焉

第二部 実践場面における参宮旅行の教育的意味

- 第七章 求められる参宮旅行のあり方と学習
  - 第一節 神宮神部署側の参宮旅行に対する見解
  - 第二節 文部省の見解を知る手がかりとしての国定教科書

著者紹介

橋本 萌（はしもと・めぐみ）  
 一九八六年 新潟県に生まれる  
 二〇〇九年 新潟大学教育人間科学部卒業  
 二〇一一年 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程修了  
 二〇一八年 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了  
 現在 東京保育専門学校専任教員

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。  
 お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(3296)8787 Fax03(3296)8788 電子メール info@rikka-press.jp

注文カード

帖合・貴店名

（八木書店経由）

注文数

冊  
 発行 二六花出版 著 橋本萌  
 定価●本体四、〇〇〇円＋税  
 ISBN978-4-86617-092-3

「伊勢参宮旅行」と  
 「帝都」の子どもたち

お名前

お電話番号

注文 年 月 日



昭和初期の山田駅周辺の旅館街と観光案内地図